胃がん　2022年6月版

Oncologist Fact Report

胃がん診療医の情報収集レポート

ダイジェスト版

株式会社メディカルトリビューン

Gastric cancer '22

監修に当たって

東邦大学大学院 消化器外科学教授・臨床腫瘍学教授 島田英昭 先生

胃がんは日本では減少傾向が認められますが、いまだがん罹患者数、死亡者数の3位を占めています。しかし、最近では優れた治療薬の開発により、進行／再発胃がんにおいても高い奏効率が期待できるようになりました。また、治療薬やレジメンの選択肢が増えたことに加え、バイオマーカーや遺伝子検査の開発も進むなど、胃がん診療を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした背景の下、胃癌治療ガイドライン作成委員会では、『胃癌治療ガイドライン』の改訂に加え、新規薬剤や治療法が承認された際には「速報」としてコメントを発出し、治療適正化の推進を図っています。

本レポートは、消化器内科、消化器外科、腫瘍内科の先生方を対象に、現在の胃がんの実臨床における診療実態を調査しまとめたものです。胃がん診療に携わる先生方がレジメンの選択・処方につながる情報を入手している経路、各施設におけるチーム医療体制の現状と課題、患者さんとのコミュニケーション状況など、非常に示唆に富む調査結果が示されています。

本レポートで特に注目されるのは、胃癌治療ガイドラインを「十分に確認している」「ある程度確認している」と回答した先生が極めて多かった一方、「速報」はガイドラインに比べて確認されていなかったという点です。新薬の承認や適応拡大により標準治療が短期間で次々に変化している現状に鑑みると、「速報」についてもより多くの先生方に十分確認いただき、日常診療に役立てていただきたいと思います。

また、医師が治療を選択する際は、エビデンスだけでなく患者さんの治療に対する考え方も考慮する必要があります。これまで、日常診療において薬物治療の有効性と安全性に対する患者さんの率直な意見を聴取・分析する機会がなかったため、本レポートの患者調査の項目から得られる客観的な情報は、今後の診療現場でも非常に有用であると思います。

医療の質および医療環境の改善は、患者さんを中心とし、医療従事者、新規治療薬や医療機器、治療法の開発に携わる企業、行政が一体となることで実現できます。そうした前提の下、どのような情報をどのような対象に、そしてどのようなツールで届ければよいのか、本レポートが医療の質向上に向けた一助となることを期待しています。

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

目次

1 本サービスご提供の背景・胃がんに関するレポートに取り組む背景

2 調査概要

- 回答者属性

3 エグゼクティブサマリー

4 調査結果詳細

- 第一部：胃がんの治療実態
  - 4-1：検査の実施状況／薬剤の処方状況
  - 4-2：開発品の認知状況
  - 4-3：治療方針／チーム医療
- 第二部：胃がんを診療する医師の情報収集実態
  - 4-4：日常診療
  - 4-5：MR／MSL
  - 4-6：学会やWEBセミナー
  - 4-7：カスタマージャーニー
  - 4-8：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察
- 第三部：胃がん患者の治療実態
  - 4-9：まとめ・回答者属性
  - 4-10：治療・通院の状況
  - 4-11：胃がんや治療に関する情報収集・アプリ

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

調査概要

	医師	患者
調査 対象者条件	1. 消化器内科、消化器外科、腫瘍内科 2. 直近1年間に胃腺がんの患者を1人以上診療している病院勤務医	胃がん患者で、薬物療法の経験がある
標本抽出	Medical Tribune ウェブ 医師会員	一般消費者パネルからのランダム抽出
調査手法	WEBアンケート調査	WEBアンケート調査
サンプル数	242ss	214ss
調査時期	2022年4月25日～5月9日	2022年4月13日～5月9日

調査対象薬剤

No.	治療薬／レジメン	試験名	発売／適応取得年
1	化学療法＋ニボルマブ	CheckMate-649試験、ATTRACTION-4試験	2021年11月
2	ニボルマブ単剤	ATTRACTION-2試験	2017年9月
3	ペムブロリズマブ単剤	KEYNOTE-158試験	2018年12月
4	ラムシルマブ単剤	REGARD試験	2015年3月
5	パクリタキセル＋ラムシルマブ	RAINBOW試験	2015年3月
6	nab-パクリタキセル	ABSOLUTE試験	2013年2月
7	トリフルリジン・チピラシル	TAGS試験	2019年8月
8	トラスツズマブ デルクステカン	DESTINY-Gastric01試験	2020年9月

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

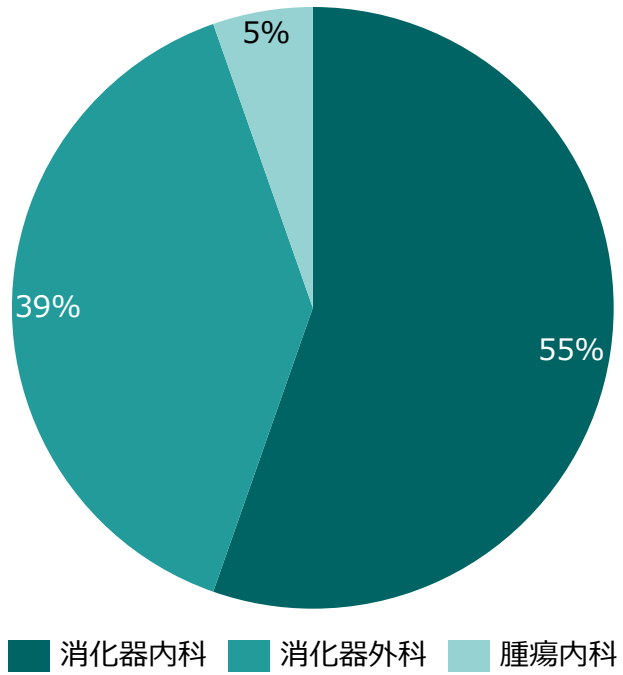
回答者属性

全体

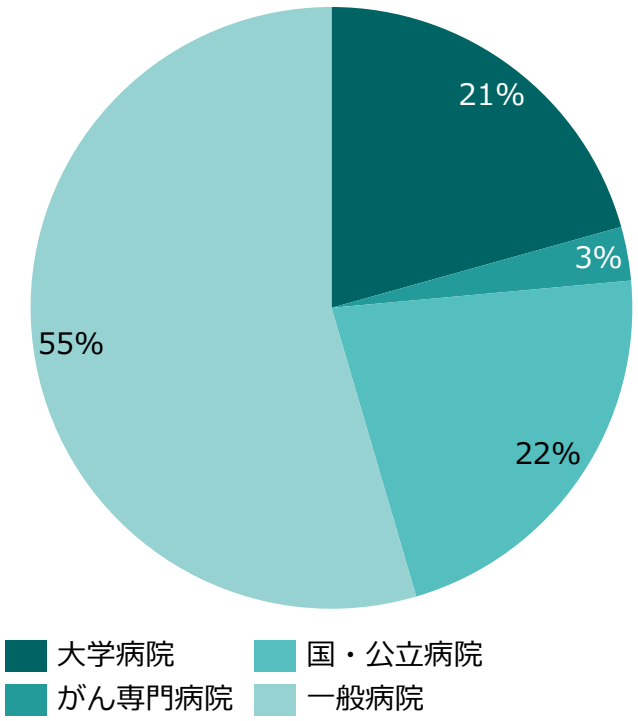
- ✓ 本調査の回答者は、消化器内科、消化器外科、腫瘍内科で構成される
- ✓ 施設形態は、一般病院の割合が最も多い
- ✓ 病床数は200床以上500床未満の割合が最も多く、500床以上の大規模病院も3割以上含まれる

（n=242）

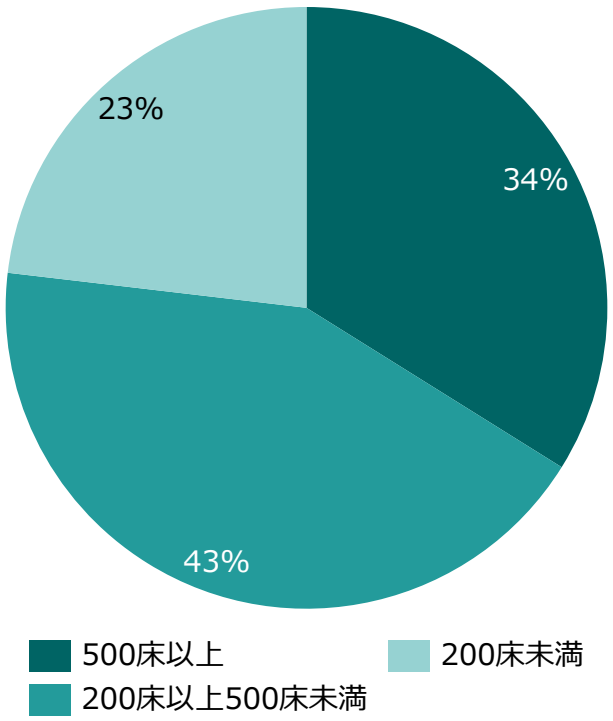
診療科



勤務施設



勤務施設の病床数



SQ1.先生の主な診療科を教えてください。／SQ2.先生の主たる勤務施設を教えてください。／SQ3.先生の主たる勤務施設の病床数を教えてください

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

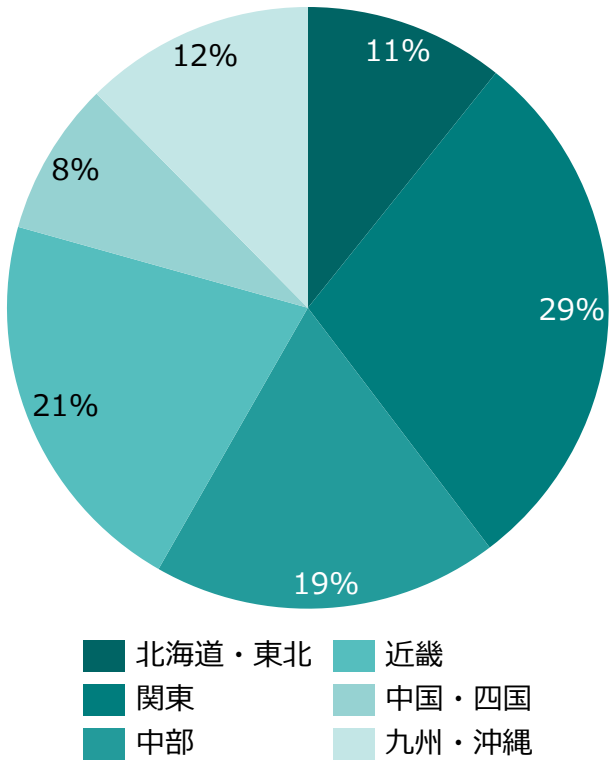
回答者属性

全体

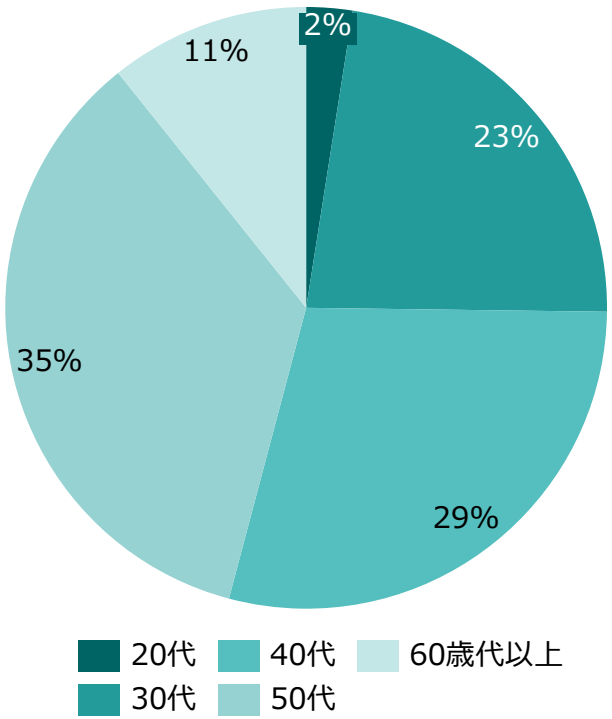
- ✓ 勤務施設のエリアは、関東、近畿の順に多く、一般的な調査の分布と違いはない
- ✓ 年齢層は50歳代が最も多く、続いて40歳代が多い
- ✓ 役職がある割合は6割を占める

（n=242）

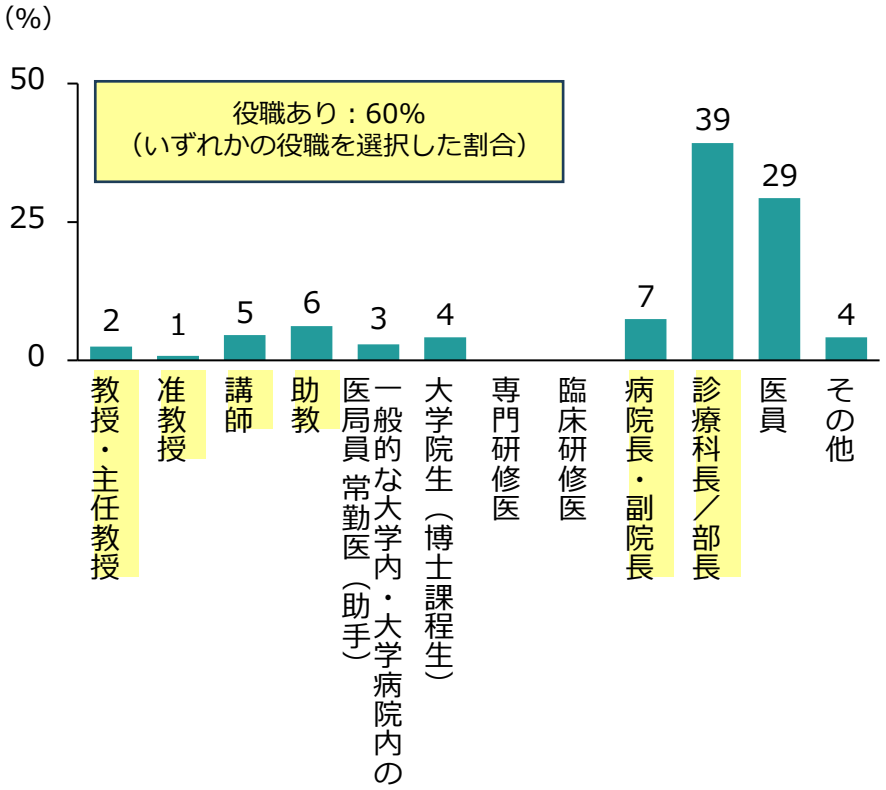
勤務施設のエリア



年齢層



役職



F1.先生の主たる勤務施設の所在地を教えてください。／F2.先生のご年齢（世代）を教えてください。／F3.先生の主たる勤務施設での役職を教えてください。（MA）

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

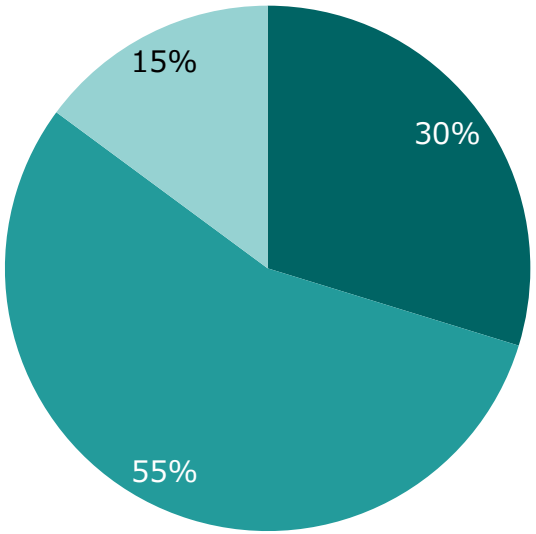
回答者属性

全体

- ✓ 採用薬の決定権がある医師は3割である
- ✓ 直近3年間で治験に関わった医師は、4分の1強である

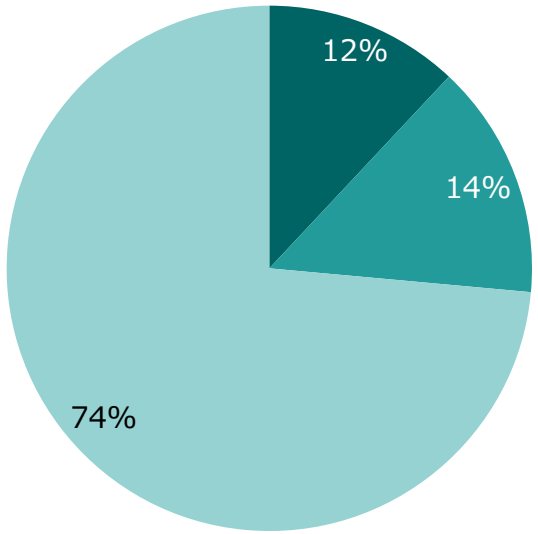
（n=242）

採用薬への関与



- 採用薬の決定権がある
- 決定権はないが、意見を出している
- 特に関与していない

治験への関与



- 現在、関わっている
- 現在は関わっていないが、直近3年間では関わっていた
- 直近3年間では関わっていない

F4.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。／F5.直近3年間における、胃がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。
PQ1.最新の『胃癌治療ガイドライン（医師用2021年7月改訂　第6版）』、「胃癌治療ガイドライン＜速報＞」について先生の状況に最も当てはまるものをそれぞれ１つ選択してください。

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

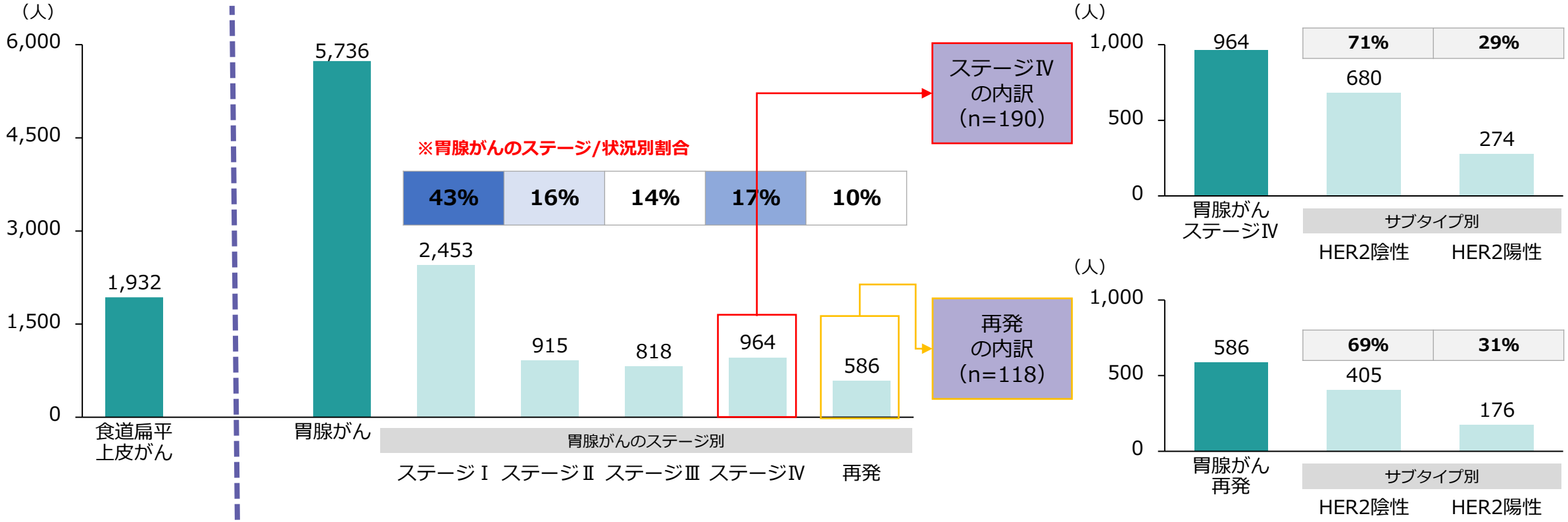
回答者属性

全体

- ✓ 胃腺がんの患者のうち、ステージⅣと再発例を合わせた割合は全体の3割弱である
- ✓ HER2のサブタイプ別にみると、ステージⅣ、再発ともにHER2陽性例が3割を占める

（n=242）

2021年1年間の患者数



SQ4.先生ご自身が診療した、胃腺がん・食道扁平上皮がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。／Q1.先生が診療している胃腺がん患者のうち、以下のステージ別の患者数を教えてください。
Q2.先生が診療している胃腺がん患者のうち、初診時ステージⅣと再発のそれぞれにおけるサブタイプ別の患者数を教えてください。

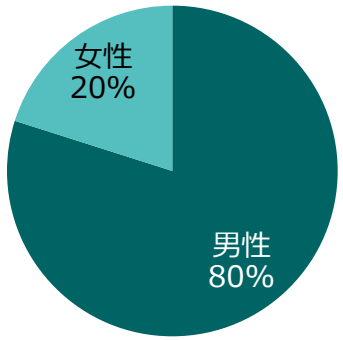
© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

回答者属性

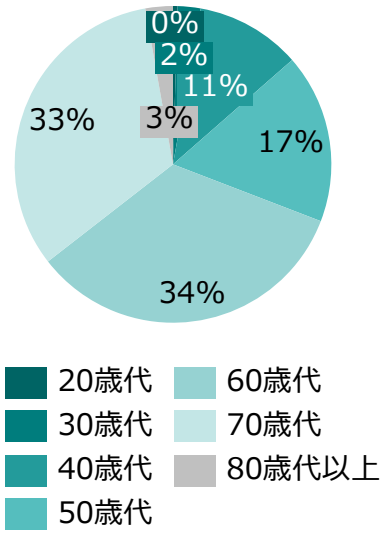
- 患者調査回答者の性は男性が８割で、年齢は60歳代と70歳代が中心である
- 治療経験として、現在投薬中の割合は22%で、具体的に投与している治療薬／レジメンに関しては不明の方が多かったが、認識されているものではS-1＋オキサリプラチン（SOX療法）が最も多い
- 手術後の補助化学療法に関しては、手術経験者（191人）の66%が受けたと回答している
- 同居家族の状況を確認したところ、独居は13%であった

（n=214）

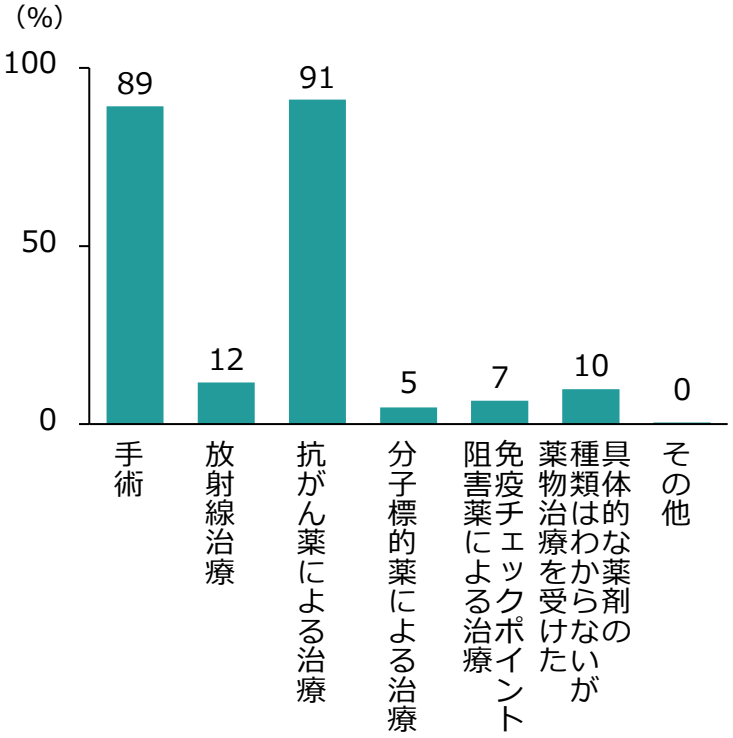
性別



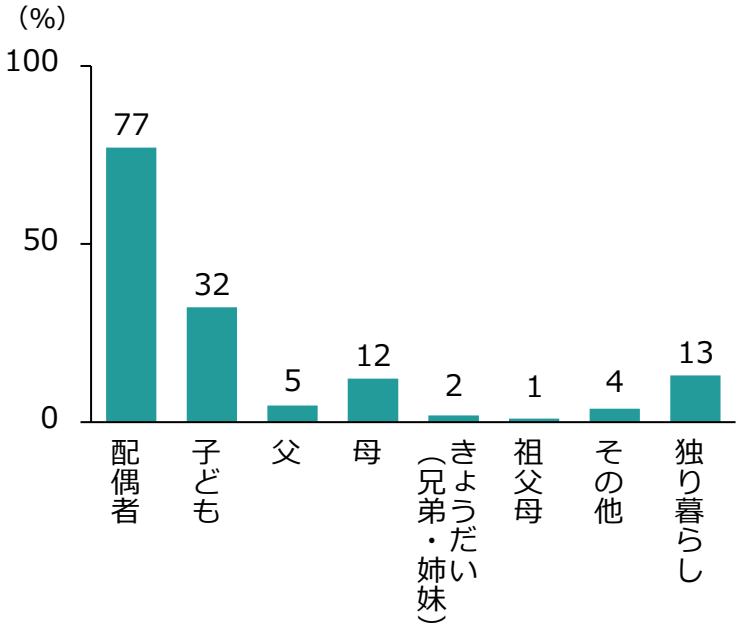
年齢層



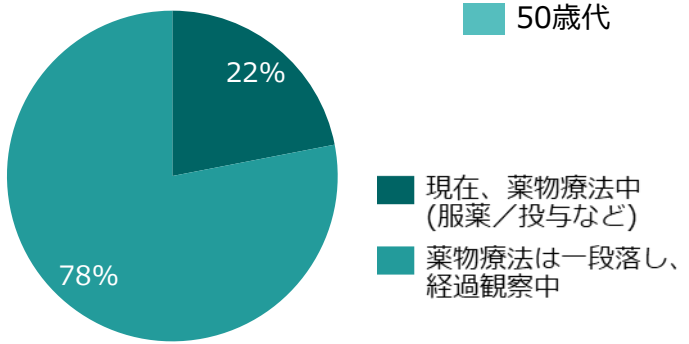
これまでに受けた治療



同居家族



薬物療法の状況



SQ1.あなたの性別を教えてください。／SQ2.あなたのご年齢（世代）を教えてください。／SQ5.これまで受けた治療について、あてはまるものを全て教えてください。（MA）Q10.現在の薬物療法の状況について教えてください。／Q17-3.同居されているご家族を全て選んでください。（MA）

© Medical Tribune, Inc. All rights reserved.

Oncologist Fact Report

2022年6月版

Medical Tribune

CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。